

## 総合的な学習の時間「閑谷學」授業実践紹介

授業者：2年次団探究担当者

学 年：2年

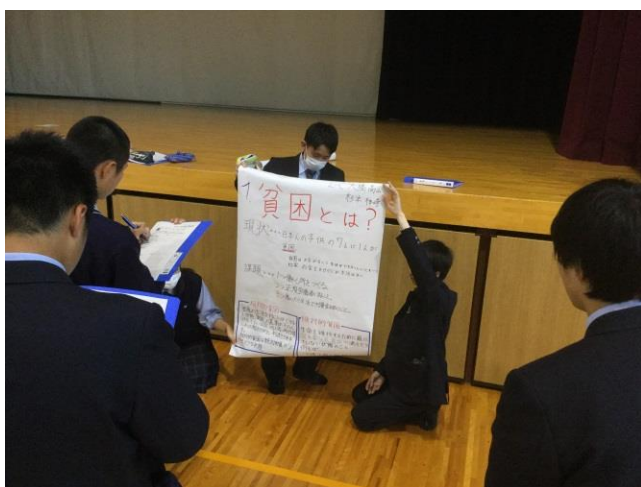
単元名：総合的な学習の時間

### 年間目標

「閑谷学校」の学びの精神を引き継ぎ、地域との関わりを重視しながら、自ら学び、自ら考える姿勢と、問題を解決していく力を身につける。

### 探究学習の流れ

- ①SDGs について調べ発表する。
- ②SDGs 学習を基に1年間探究したいテーマを作文する。
- ③テーマ作文を基にグループに分かれて探究開始。SDGs を身近なことに置き換えて自分たちに行えることは何かを探究・提案・実践する。



- ④探究成果を発表する。



## インターンシップ



## 修学旅行（関東・大学体感プログラム）



修学旅行（韓国・英語でプレゼンしている様子）



修学旅行（韓国・スマホが語学力を補うコミュニケーションツールになっていました）

### 単元を通して身につけてほしいこと

SDGs という地球規模で共通の課題を題材に、一見大きな問題を身近な事に捉え直して、答え（唯一の正解）のない課題に対してどうしたらいいのか、自分たちなりの解決方法（最適解）を探り当てる習慣を身につけて欲しい。探究学習を進めるに当たり、学校の中に閉じこもるのではなく、地域に出て多くの人に出会う中で、自分の価値観を形成し、これからどう生きていくかを考える機会にしてほしい。

### 単元のヤマ場となる授業場面

2月に行われた探究学習発表会で、閑谷學でお世話になった地域の方々、大学の先生等をお招きし大勢の前でステージ発表を行った。実践事例や学習成果だけではなく、うまくいかなかったことや苦勞したことも含めて、探究学習のプロセスの発表に主眼を置いた。

発表会の企画・運営を生徒の実行委員が担当した。「和気あいあいフェスタ」という発表会の通称や「千年に1度の探究賞」という投票による賞の名前も実行委員で決めた。独創的なオープニングをはじめ、自分たちで創った発表会という意識が芽生え、特に実行委員の生徒達は主体的に取り組んでいた。

今年度はインターンシップや修学旅行も閑谷學の一環と位置づけ探究活動を行った。普段とは違う場所で普段は会わない人たちのお話を聴き、視野が広がったのではないかと思う。

#### 評価の材料

- 1 毎回の取り組み状況（取り組みが著しく不十分な者）
- 2 OPPシート（内容や字数が著しく不十分な者）
- 3 レポート（未提出、内容や字数が著しく不十分な者）

※評価者が1～3を総合的に判断する。